

川崎市大気・水環境計画による新たな化学物質対策がもたらす効果

リスクレベルに応じた化学物質の適正管理を促進することで、効果的な環境リスク低減をめざすとともに、様々な効果が期待できます。



- 環境リスク評価を行い、自主的な管理の優先度が高い物質（自主管理優先物質）を選定
- 事業者への管理状況等に関するヒアリング、環境リスクに関する情報提供
- 環境モニタリングによる環境改善状況把握等の実施



- 環境リスクの考え方を取り入れることで、「安心できる環境」を目指した効果的な削減計画の策定が可能になります。
- 環境リスクを考慮した取組の推進などを通じて、地域における信頼度の向上が期待されます。



- 環境リスクのレベルを知ること、必要かつ適正な管理の状況を確認できます。
- 環境リスクが低減し、環境影響が未然に防止されることで、安心・安全な環境の実現につながります。

川崎市大気・水環境計画での新たな化学物質対策

事業者のかた

効果的な削減計画の策定
取組を通じた、地域における信頼度の向上

市民のかた

環境中における安全の確認
安心、安全な生活環境の実現



御理解、御協力よろしくお願いいたします！



問合せ先
 川崎市 環境局 環境対策部 地域環境共創課
 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
 川崎市 TEL:044-200-2532

化学物質の『量』と『質』に着目した取組について

化学物質は、様々な原材料や製品として流通していますが、規制される化学物質は一部で、適正に管理されなければ、人の健康等に好ましくない影響を与えるおそれがあります。このような影響の未然防止のため、本市では、化学物質の排出量の削減目標を定め、化学物質の適正管理に係る事業を推進してきました。



- 本市は、化学工業などの化学物質を取り扱う事業所が多く集積
- 化学物質の『排出量』は、事業者の方の取組等により大幅に削減
- 化学物質対策の方向性は、『環境リスク*』の最小化をめざす流れ**
*化学物質の「環境リスク」とは、化学物質が環境を經由して人の健康や動植物の生息又は生育に悪い影響を及ぼすおそれのある可能性をいいます。
 **第5次環境基本計画（平成30（2018）年4月17日、環境省）では、化学物質のライフサイクル全体の最小化に向けた取組の推進が位置づけられるなどしている。



川崎市大気・水環境計画（令和4年3月、川崎市）における化学物質対策については、今までの『排出量（量）』に着目した取組に加え、『有害性（質）』を加味し、『環境リスク（量×質）』に着目して取組を推進します。

重要！

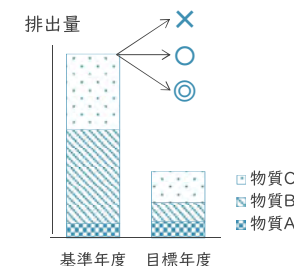
これからの化学物質対策 ▶ ①排出量（量）+ ②環境リスク（量と質）



①排出量（量）-これまでの取組-

令和元（2019）年度レベルのPRTR総排出量の維持又は低減を目指します

- 市内の化学物質の総排出量は、大幅に削減されています。（H13年度:2927t→ R1年度:965t 67%削減）
- これまでの排出量低減に向けた取組の継続によりPRTR総排出量のR1（2019）年度レベルの維持又は低減を目指します。



②環境リスク(量と質)-これからの化学物質のさらなる適正管理に向けた取組-

環境リスク評価の結果から、

「(仮) 排出抑制物質」

「(仮) 排出管理物質」を選定し、

事業者の方へ、それぞれのリスクレベルに応じた化学物質の適正管理を促すことで、効果的なリスクの低減をめざします。

環境リスク
評価

自主管理優先物質
(仮) 排出抑制物質
(仮) 排出管理物質

リスクレベルに応じた
化学物質の適正な管理

重要!



環境リスク評価

対象物質の評価を実施

対象物質(イメージ)

日本で使われている化学物質

(うち) PRTR制度届出対象の化学物質

(うち) 市内で大気へ排出されている化学物質

(うち) 未規制等の化学物質

(うち) 有害性情報がある化学物質

⇒環境リスク評価の実施概要及び結果の詳細は、
市のHPを御覧ください

環境リスク評価優先物質のうち環境リスク評価が行われた物質(一例)

管理番号	物質名	管理番号	物質名
3	アクリル酸エチル	87	クロム及び三価クロム化合物
4	アクリル酸及びその水溶性塩	123	3-クロロプロペン
56	エチレンオキシド	134	酢酸ビニル
68	1,2-エポキシプロパン	213	N,N-ジメチルアセトアミド
83	クメン(インプロピルベンゼン)	232	N,N-ジメチルホルムアミド

物質選定

環境リスク評価の結果から、

自主的な管理の優先度が高い化学物質を選定*1

自主管理優先物質…自主的な管理の優先度が高い物質

(仮) 排出抑制物質

大気への排出を抑制することが
望ましい化学物質です。

<事業者の皆様へ>
排出量削減に係る取組や代替物質の検討等、該当物質の管理状況について、ヒアリング等を実施していきますので、御協力をお願いします。

<該当(候補)物質>
現時点ではありません。

(仮) 排出管理物質

大気への排出を増加させないことが
望ましい化学物質です。

<事業者の皆様へ>
現状の排出量を増加させないようにする取組等、該当物質の管理状況について、ヒアリング等を実施していきますので、御協力をお願いします。

<該当(候補)物質>
現時点で以下の6物質あります。

管理番号	物質名	管理番号	物質名
4	アクリル酸及びその水溶性塩	87	クロム及び三価クロム化合物
56	エチレンオキシド	149	四塩化炭素
68	1,2-エポキシプロパン	302	ナフタレン

重要!

令和4年度以降の環境リスク評価等について

環境リスク評価を継続し、定期的に「自主管理優先物質」の見直しをします。



高

環境
リスク
レベル

低

リスクレベル1
MOE*:10未満
がん過剰発生率*:10⁻⁵以上
EPI*:2.0×10⁻⁴以上

リスクレベル2
MOE:10以上100未満
がん過剰発生率:10⁻⁶以上
10⁻⁵未満
EPI:2.0×10⁻⁵以上
2.0×10⁻⁴未満

リスクレベル3
MOE:100以上
がん過剰発生率:10⁻⁶未満
EPI:2.0×10⁻⁵未満

引き続き、法令に基づいた適正管理をお願いします。

*1 原則として、2回以上の環境リスク評価を行った上で、自主管理優先物質として選定しています。
*2 MOE(暴露マージン)、がん過剰発生率、EPI:環境リスク評価に用いられる一般的な指標